

サケの自然再生産状況と産卵場所の環境特性の実態解明

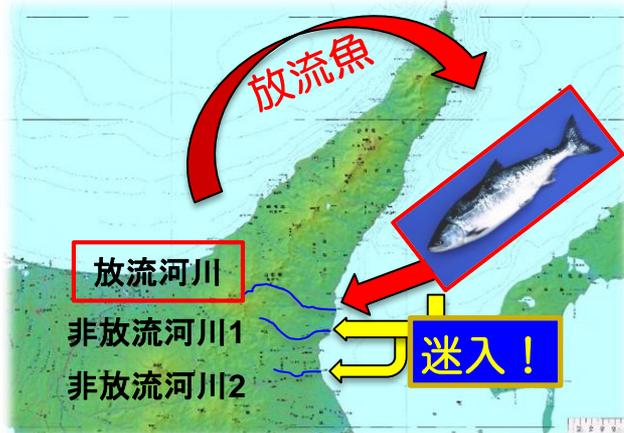
—放流魚も自然産卵を行い、持続的な資源利用に寄与している—

背景

- ・サケの遺伝的多様性を守り持続的な資源利用を実現するには、自然産卵個体群と産卵環境の保全が不可欠である。
- ・本道ではふ化放流による増殖事業が主体であり、サケの自然産卵個体群やその産卵環境に関する知見は不十分である。

成果

1 放流魚の迷入と自然産卵を確認



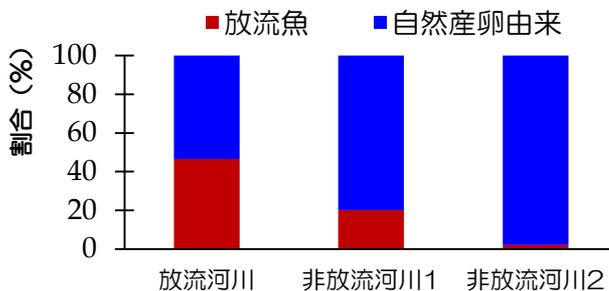
サケは母川（放流河川）に回帰するはずだが...

- ・非放流河川での放流魚の遡上・産卵を本道で初めて確認！

期待される効果

- ・自然産卵個体群の保全を考慮した望ましい放流事業の実施（例：放流場所の選定）に活用できます。
- ・サケが産卵できる河川や流域の環境評価等に活用され、遺伝的多様性の保全に役立ちます。

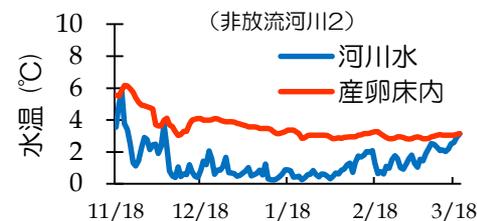
2 河川に遡上・産卵するサケの由来は？（放流 or 自然産卵）



非放流河川には放流魚はいないはずだが...

- ・根室管内の放流河川に3500尾、非放流河川には350～500尾が遡上
- ・放流河川では遡上魚の4割が放流魚、6割が自然産卵由来の個体
- ・非放流河川では放流魚が遡上魚の2割を占めた河川も

3 産卵場所の環境特性を評価



- ・産卵床は水が浸透する場所、湧出する場所に形成され、時期により変化
- ・産卵床内の水温は周囲よりも安定
- 産卵場所の保全・管理には地形や地質の情報が重要